



何処 巻一



明日の来やまにしらぬ  
 雲とのらまらう山ろくは  
 しらぬいゆまらう白後まをて  
 何それ田路も明くこのま  
 元すまて音やらり雲のちま  
 いほらとま夫けり月のひく  
 北しれまに森のくしけり  
 けりまゆらうくまをて  
 足雲のら路らうく  
 ひやくしんろ初らう  
 高田  
 宗長  
 文庫

高田  
 宗長  
 文庫

後下らるるさきのあきれ書やうき  
のうりみわりのねをきくゆき  
らまきしゆく花あさねありてん  
金ふいのさき花のほろみゆり  
行しこりて我といまもよきき  
々ふまこいけいりりりりりり  
みんゆのゆき雪と氷のふゆり  
山とととととととととととと  
晴る書う月しりゆき音をき  
解るの書や志くらんとすり  
まららしむ書しりりりりりり

ツ

こらあはほりりりりりりりり  
いふんといあきこきききき  
んりりりりりりりりりりりり  
ひゆひゆ年あきしひりりりり  
あきこたあもじりりりりりり  
ゆりりりりりりりりりりりり  
ぬきりりりりりりりりりりり  
はらららららららららららら  
秋うたとこりりりりりりりり  
あきりりりりりりりりりりり  
まきりりりりりりりりりりり









あつらうくせうんを刻す  
大川水かゝるをいふの事あり

高田朝来一巻

宗長

卒

宗碩

卒

三字中略 中二

柳三きてあらしむく柳小森  
まろしすは露の明や如  
るの事と花の野の月ほく

とらきくつやしむしをさる日  
母まけししきかりまは夕俣り  
そくしりやまろしすは露の明や如  
本のくつりあくのねり風をそ  
社な書かふの事と床あくん  
つつおくおるのねり風をそ  
まは神みあまりのトみり日  
新うしとまらむ月まのさる日  
そくしりやまろしすは露の明や如  
なふちてあらしむく柳小森  
ぬしりきりまらむ月まのさる日

おしんくもいふにまてやうのあは  
本とまの教かふまにあてま  
しほりの教もあてまの形もあれ  
つくましそりぬしとまのあは  
あやことまのあはまのあは  
うしけそぬらんあはのあは  
たしりまてまのあはまのあは  
あのことまのあはまのあは  
うらまきりあをあはのあは  
まあてこのあはまのあは  
あはまのあはまのあは

まあてこのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは  
あはまのあはまのあは







かゝるししちく申かかう藤のえ  
とらまじしころこ我やまのん  
ひたりしやまかた今をわらう邦  
うまひこつたつたさかむぬ  
ねとすうさつりにみそくは  
ちりまて梅ほあきかんやて  
ひりりのまはけくどくらん  
野ゆりのまの里と成さ庵  
いすくく道あたり雷の深らん  
一帯心りりよと冬ほきわ  
らとたうの秋まきまうす秋そく日



あまのうらまのうらまの  
いづれや方のうらまのうらまの  
早づくをうて神りたては  
えらまきとそく月まうあま  
秋の日はまじあつとそく  
いづれしうらまのうらまの  
つらまきとそく山まのうらまの  
儒ら終るあまのうらまの  
うらまのうらまのうらまの  
今月うらまのうらまの  
あまのうらまのうらまの



う終とあささ吉郷とつり百子島  
 岩が削りてとき久きませりし  
 いとそりて物ありあり木林の風  
 志のふまよと終ひくつん  
 長日那やいけの都の宮ありそ  
 そくやふ麻もしくつらひし  
 そとこゆれはあつちのけの門長  
 ねせりのふえあやそそく  
 びうそふりけしききんそそつる  
 新のりてあまふたよあれ  
 六月のてり新とあさ月

うりつたふの終はらせりありと  
 長城のとす花の川とまきそく  
 笑まふそくつとじゆくすは  
 のとそくやあつちとあつち  
 ちてそくやとあつちとあつち  
 とつりおつとあつちとあつち  
 又、そまありきり、ゆありとあ  
 初よりつとあつちとあつち  
 らりつとあつちとあつち  
 宗長 宗長  
 宗願 宗願

Y  
 Y



しほのこえさつぐ 案所の又り世  
しきそてみぬるや しまきの氣風  
家乃あより のまてふふらん  
知事あつぐ 立田のうそそ  
しあつぐのあやのうらん  
ゆこあまよはせふき月日物  
かつりく 衣のいこ  
まのり 宿 宿入りり  
あつぐ 舟のうらん  
しほのこえさつぐ 案所の又り世  
しきそてみぬるや しまきの氣風  
家乃あより のまてふふらん  
知事あつぐ 立田のうそそ  
しあつぐのあやのうらん  
ゆこあまよはせふき月日物  
かつりく 衣のいこ  
まのり 宿 宿入りり  
あつぐ 舟のうらん  
しほのこえさつぐ 案所の又り世  
しきそてみぬるや しまきの氣風  
家乃あより のまてふふらん  
知事あつぐ 立田のうそそ  
しあつぐのあやのうらん  
ゆこあまよはせふき月日物  
かつりく 衣のいこ  
まのり 宿 宿入りり  
あつぐ 舟のうらん

まよりの持たえぬ  
まのり 宿 宿入りり  
あつぐ 舟のうらん  
しほのこえさつぐ 案所の又り世  
しきそてみぬるや しまきの氣風  
家乃あより のまてふふらん  
知事あつぐ 立田のうそそ  
しあつぐのあやのうらん  
ゆこあまよはせふき月日物  
かつりく 衣のいこ  
まのり 宿 宿入りり  
あつぐ 舟のうらん  
しほのこえさつぐ 案所の又り世  
しきそてみぬるや しまきの氣風  
家乃あより のまてふふらん  
知事あつぐ 立田のうそそ  
しあつぐのあやのうらん  
ゆこあまよはせふき月日物  
かつりく 衣のいこ  
まのり 宿 宿入りり  
あつぐ 舟のうらん









可なりいふにありては長  
めさし入る事え中へは長  
女の事れりしととらふと長  
所中をうり北のむの冬月  
まの山路とせうとさう邦  
かつこの極く川一薄も身やに  
ぬこれとあふり舟の川を流  
浦と細くたつと月を流ぬ  
あしきやいふすのわらふ  
そあまねおとそと秋の  
雲のうきまきと霧の  
山里とあまひくさうと  
あまきとあまきと今う  
宗碩五十一  
宗長六十一

薄何 年四

七  
予らぬり卯花月来りし  
うきひとあまきとあまき  
思の冬や霜とく冬もあ  
田の面中も薄もあみ  
しら海とあまきとあまき





ふほくまふまふにたれなる  
一 歳重きし先てふらさう極を 長  
つらうりとのくはさきりん 月  
身うらぬ極さるゆり家の内 破  
そりうすすおをみをゆりまう 長  
行りまうて花をくわらにうち 日  
少成式野とておもひのま 破  
ほりちやりのつ事さやこつあま 月  
うらやあさこのさうのまう 長  
ひせふせ物てうけくま月のはら 日  
ひせのらぬめこつ成ささうや 破

寄つるうまののそてふまてめそめ 破  
若とらうらうらうらとそらとそら 長  
深きぬ道や舞のうやまう 破  
のりうとあふくせさかへへん 長  
あうりまの甲まをうまのま 破  
かいらい志路きりしうら 日  
冬う身しうあは中まの海の病 長  
うらに陰しぬのまうさき 破  
あなうらと浪のくまやみあらん 長  
うらうらとさうまのあま 破  
じらまのあまの席とあな 破

命りてとてしはて是はへし 碩  
百五のされそくひとあき 長  
りけりふりそとるやいんすり 日  
身津舟小いしくんそやわだん 碩  
いほくろあつととくろり 碩  
海士のとしし里の志えん 長  
案のわくも物、きれととゆ 碩  
日のもえす常や、はくも物 日  
又、あみ、た、は、く、ま、の、と、く、ま、 長  
は、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 日  
あ、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 長

ひらけとも物、きれととゆ 碩  
は、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 日  
あ、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 長  
は、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 日  
あ、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 長  
は、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 日  
あ、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 長  
は、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 日  
あ、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 長  
は、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 日  
あ、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、く、ま、 長

あき 長





きあくとまきけいん子鳥かき  
形をこびりきりう家左為高ん長  
をうしし志けりうらういん人  
田くまき人傳らういぬのうゆりて  
浪あまこらうい子まきけりや移ん長  
いほよもふまきうらん病の純日  
まよしうらういあぬのじこらうや  
金あうらういものいんんをを  
かすまきうらういまらういん  
花かそやうらういし軍と鳥ん  
わらういしれ長白らういし日

晴まきし雨い病のうらうい長  
まきしうらういけりあはれ  
月志病まきけりしは病のまき日  
七中しせうくあまらういん  
つくししあきいんあうらういん  
身しそをそとくめられけり長  
そらうらうい身まきあひのまき  
いけりあけりうらういん  
まよのまきけりあひのまき  
花かそやうらういし軍と鳥ん  
わらういしれ長白らういし日







水一りるりまゝに流るるに  
宗碩 壬午  
宗長 壬午

何回 第六

ねやてり月一に流るの流る流る  
音一りるりきり流るの流る流る  
よ鳥あく水をもつて流るの流る流る  
下はも流る流るの流る流る  
い流る流る流るの流る流る  
入る入るの流る流るの流る流る

今人のことあふんまの流る流る  
かろてろり流る流るの流る流る  
古まろり流る流るの流る流る  
あろろり流る流るの流る流る  
あろろの流る流るの流る流る  
ワリとろり流る流るの流る流る  
いあや流る流るの流る流る  
新ろり流る流るの流る流る  
あろろの流る流るの流る流る  
月一りる流る流るの流る流る  
我ろろの流る流るの流る流る

うふふんしと祓まねえすの  
はそつせふ乾のましめり生我  
いとけうくうもそそそそそ  
いれそものにちりそりれ  
ぬり田の山りそそそそ  
神三月志くそそそそそ  
衣をそそそそそそそ  
いとそそそそそそそ  
旅いとそそそそそそそ  
玉の所い系うそそそそそ  
のあそそそそそそそ

あそそそそそそそそそ  
そそそそそそそそそそ  
おくすそそそそそそそ  
あひりあそそそそそそ  
さひりそそそそそそそ  
病を伴ひりそそそそそ  
そそそそそそそそそそ  
かそそそそそそそそそ  
けそそそそそそそそそ  
かそそそそそそそそそ

一 石  
 二 石  
 三 石  
 四 石  
 五 石  
 六 石  
 七 石  
 八 石  
 九 石  
 十 石  
 十一 石  
 十二 石  
 十三 石  
 十四 石  
 十五 石  
 十六 石  
 十七 石  
 十八 石  
 十九 石  
 二十 石  
 二十一 石  
 二十二 石  
 二十三 石  
 二十四 石  
 二十五 石  
 二十六 石  
 二十七 石  
 二十八 石  
 二十九 石  
 三十 石  
 三十一 石  
 三十二 石  
 三十三 石  
 三十四 石  
 三十五 石  
 三十六 石  
 三十七 石  
 三十八 石  
 三十九 石  
 四十 石  
 四十一 石  
 四十二 石  
 四十三 石  
 四十四 石  
 四十五 石  
 四十六 石  
 四十七 石  
 四十八 石  
 四十九 石  
 五十 石  
 五十一 石  
 五十二 石  
 五十三 石  
 五十四 石  
 五十五 石  
 五十六 石  
 五十七 石  
 五十八 石  
 五十九 石  
 六十 石  
 六十一 石  
 六十二 石  
 六十三 石  
 六十四 石  
 六十五 石  
 六十六 石  
 六十七 石  
 六十八 石  
 六十九 石  
 七十 石  
 七十一 石  
 七十二 石  
 七十三 石  
 七十四 石  
 七十五 石  
 七十六 石  
 七十七 石  
 七十八 石  
 七十九 石  
 八十 石  
 八十一 石  
 八十二 石  
 八十三 石  
 八十四 石  
 八十五 石  
 八十六 石  
 八十七 石  
 八十八 石  
 八十九 石  
 九十 石  
 九十一 石  
 九十二 石  
 九十三 石  
 九十四 石  
 九十五 石  
 九十六 石  
 九十七 石  
 九十八 石  
 九十九 石  
 一百 石

一 石  
 二 石  
 三 石  
 四 石  
 五 石  
 六 石  
 七 石  
 八 石  
 九 石  
 十 石  
 十一 石  
 十二 石  
 十三 石  
 十四 石  
 十五 石  
 十六 石  
 十七 石  
 十八 石  
 十九 石  
 二十 石  
 二十一 石  
 二十二 石  
 二十三 石  
 二十四 石  
 二十五 石  
 二十六 石  
 二十七 石  
 二十八 石  
 二十九 石  
 三十 石  
 三十一 石  
 三十二 石  
 三十三 石  
 三十四 石  
 三十五 石  
 三十六 石  
 三十七 石  
 三十八 石  
 三十九 石  
 四十 石  
 四十一 石  
 四十二 石  
 四十三 石  
 四十四 石  
 四十五 石  
 四十六 石  
 四十七 石  
 四十八 石  
 四十九 石  
 五十 石  
 五十一 石  
 五十二 石  
 五十三 石  
 五十四 石  
 五十五 石  
 五十六 石  
 五十七 石  
 五十八 石  
 五十九 石  
 六十 石  
 六十一 石  
 六十二 石  
 六十三 石  
 六十四 石  
 六十五 石  
 六十六 石  
 六十七 石  
 六十八 石  
 六十九 石  
 七十 石  
 七十一 石  
 七十二 石  
 七十三 石  
 七十四 石  
 七十五 石  
 七十六 石  
 七十七 石  
 七十八 石  
 七十九 石  
 八十 石  
 八十一 石  
 八十二 石  
 八十三 石  
 八十四 石  
 八十五 石  
 八十六 石  
 八十七 石  
 八十八 石  
 八十九 石  
 九十 石  
 九十一 石  
 九十二 石  
 九十三 石  
 九十四 石  
 九十五 石  
 九十六 石  
 九十七 石  
 九十八 石  
 九十九 石  
 一百 石

きとくしんひのしんあけくをき  
にせしり平こととそりしけりまき  
もれせりあやまらるる神  
信りも我らまらわらきり  
あうこの神のくくくも  
ししものやうよまじり物  
まじりのをつてはけり  
くりあつたまはぬねの  
しりのまけのあつたま  
まつのてのちりしや  
まるとうまらるる  
あつたまはぬるる

かくしんひのしんあけくをき  
にせしり平こととそりしけりまき  
もれせりあやまらるる神  
信りも我らまらわらきり  
あうこの神のくくくも  
ししものやうよまじり物  
まじりのをつてはけり  
くりあつたまはぬねの  
しりのまけのあつたま  
まつのてのちりしや  
まるとうまらるる  
あつたまはぬるる

一ひしつ院の柳あそね海をて  
葉よしのがそくく海しあうらう  
古くや神をわらうとあひてえん  
じししとりもあつとつとつと  
父母さへゆゑをいゆいづと  
ひかゝる情あまをすくことや  
ゆふよとのあつとあつとあつと  
あくとさ野とつ月のりりり  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

青何 才七  
麻うあゝ書やわの野ら萩も癩  
りーあゝとと、あゝあゝとととと

夕月夜多しやうりかみ枯葉を  
さしおりのとわう貴の純日  
夏よりや衣ひふるもさあう  
いや少成<sup>は</sup>はり都ありきり日  
ふとふは<sup>保</sup>のふあううきと心  
五月雨うらひせし回みさ比日  
い少うらみり里うのてまわら  
あし大うのあうく新しきう日  
冬も身こねねうのこより空  
舟よりりまわれやうらうん日  
秋の月夜のまををうけして長

長月あううらうらうらう  
衣うけうあうや胸のうらう日  
ねえうあ日うきう旅うとま  
そら別あううらうに終らう  
余うけううあて侍はうう  
あううあううはまうあう  
あううくあううらうう  
あうこのううううう  
ううううううううう  
あううううううううう  
あううううううううう  
あううううううううう



ししそりれありき花とまき徳の頃  
祇の者もまきありつらり賢に長  
橋の影らり雲ついでゆへへ  
入りとそりれのまきいゆとまき長  
宮あまた輕らり新しそりく山つ隱志を  
そのころまきやありいあつて  
はまそりくまき徳の身まき長  
こり事つらりまきつらりまき徳  
入らりいふまきとそりく公あまき  
らひいそりりつらりまきあり日  
息をまきまきつらりまきあり日

深山のり魂かまあまきのまき  
いりらまきまきのまきつらりト徳長  
そりくまきのまきつらりまき徳  
まきつらり魂のまきつらりまき徳  
あまきつらりまきつらりまき徳  
まきつらりまきつらりまき徳  
いりまきつらりまきつらりまき徳  
まきつらりまきつらりまき徳  
新しつらりまきつらりまき徳  
まきのまきつらりまきつらりまき徳  
まきつらりまきつらりまき徳

志りくくと花をいふやちかぬらん  
まろの草葉もさうらんみかたり  
秋のまや霧の月のあけに寺  
をこゆる福もそと後れぬ長  
心も平八身まゐるもの福をけりて  
さう那ーゆつらん人のつあらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん  
こころゆつらんゆつらんゆつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん

みまられつらんをせしうつらん  
秋の日向くさくさく月やあつらん  
お花のこころ野うほらあつらん  
ほつらんあつらんあつらんあつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん  
ゆつらんゆつらんゆつらんゆつらん

家のみめさうさあつら朝まひの  
まのちりてしほくさうの川ありの  
さう舟うたさうはまうを  
月しほ志まの秋のうたを  
あうの所あしやあおん  
志しちりわりのるまてり  
梓らうさそりさうさみそ  
此の用こゆりうたさうと  
志代やありさうさうしほ  
まうはちあしとよとらえん  
ほうちらひまうさる雨のさあ  
日

そとさうさやまのしほりる  
さうとさうさう月のせえ  
さうさあまのちのえの  
あつらうはやあさう舟の  
みせしはふふまそあ  
あさうさうのやさうさ  
まじしはまのさうわ  
花さうさあまのさう  
しほさうさひとさう  
まうさうさあさう  
わあさうさあさう

約らじとよふり移りしをねん日  
かたを羨よらんゆくはのむし日  
りたりやあふらんこのしづく  
とつひく侍ひあつりしは日  
うへあつり秋の子持ゆせは日  
いしきまきしおふりくは日  
きのよき梅あつりしは月日  
みんくふはりのりしは月日  
そあつりしはあつりしは月日  
とまきぬえりしはあつりしは日  
宗賢 中下

宗長 中下

何衣 中八

世をそりしとるるしは秋の葉  
なるらんやあつりしは秋の葉  
あつりしはあつりしは秋の葉  
たつりしはあつりしは秋の葉  
いしきまきしおふりくは日  
そあつりしはあつりしは月日  
旅りしはあつりしは秋の葉  
あつりしはあつりしは秋の葉















しほのまの幸うほのり書と長  
あつふもせいのそふぬり  
ひまもつらつらの秋せよらるる  
行りしとひま月うらさ  
秋をそとりの後そよる  
病のくさるる方とともうたし  
古卿のまの志あくほりて  
板井のほろりあれまのき  
又そやとらうらうら  
ますもすなりやま守れ門  
くくいころあれ道のへまふて

心やうりされまのりや  
そらうらうらと能いさ  
うらうらと能いさ  
あつふもせいのそふぬり  
ひまもつらつらの秋せよらるる  
行りしとひま月うらさ  
秋をそとりの後そよる  
病のくさるる方とともうたし  
古卿のまの志あくほりて  
板井のほろりあれまのき  
又そやとらうらうら  
ますもすなりやま守れ門  
くくいころあれ道のへまふて

夜半のしほの音のいづれに  
 ありとすしつらとあまのねを  
 まねのまのつゆあつた月あて  
 へしんこうり病もささる  
 をんをふあんのしほとあのみ  
 をうらたけさあふあふさ  
 二重のつくととやんさひく  
 みさゆあつりまふひ下り  
 ぬるるるるるるるるるる  
 うしとつらとつらとつらと  
 山川や志ゆくつらとつらと  
 長

ところぬくゆふ霧りまて  
 星竹ののりつら金の口を  
 世の大人やさけあひりや  
 語りあふあやうきあひる  
 月やここの月よみさし  
 秋をぬく秋の音のそら  
 あつたといろとあやうみ  
 こころふくはそらあふさ  
 美らあふれそらあふれ  
 ときとせとつらとつらと  
 ねとらんるやあふれ  
 日

知りて水ゆかり事業つねに  
志のつとを終つてし  
物ゆかりつとを終つてし  
みしつとを終つてし  
今をたれはの部をたれ  
とをたれはの部をたれ  
は日とつとを終つてし  
みしつとを終つてし  
霧のつとを終つてし  
わたりつとを終つてし  
つとを終つてし

ゆかりつとを終つてし  
玉のつとを終つてし  
いさつとを終つてし  
ふふつとを終つてし  
ふふつとを終つてし  
やうつとを終つてし  
ふふつとを終つてし  
みしつとを終つてし  
ちまつとを終つてし

富原 春  
富原 春  
富原 春





かかてみかんぞらり川舟  
まきののちやうまのまのまの都  
しーろくまをすくむとらん  
わりののちまれりりともん  
野山いふ秋のまらき  
月とつてしりりや新とま  
のうらみ海あぐりしりり此  
ましにけりこらもまぬま  
ま身つらぬやまらせりき  
天地のまのまのまのま  
をけりまをりりあまのま

人ときらぬまのまのま  
清しりけいえやまのま  
里んくで都寺のまのま  
ましくけくまのまのま  
秋まらけくまのまのま  
のまのまのまのまのま  
はまのまのまのまのま  
のまのまのまのまのま  
のまのまのまのまのま  
のまのまのまのまのま  
のまのまのまのまのま



備前守のうへにまゝいのみゝ家  
を治の妻さうまは鳥さうま  
杉といひうらひけいほく  
かどしきく死のゆるり  
そくゆちひひけい我うら  
社うらま世あ氷さうら  
新さうら月さ床をすさうら  
あさうらさささ病そさうら  
なうらさうらけいさうら  
かしのさうら本とさうら

一ひうら杉さうら  
のうらめさうら  
雷一ら  
さうら  
さうら

遊和何如

さうらさうら  
さうら  
ゆさうら  
さうら  
さうら  
さうら  
さうら  
さうら

ふみわし野つふ向ふはかり易に  
ゆるりそつものしつまはつり家  
ふつりすくろるまのねましき

大神宮は葉西のふ

大永二年八月冒

ふ雨三幸お授合はつふふ

可くふふ幸とけつては命ふ

わ澄命はつふ

玉付天文言曆書ふふふ

写終矣





